

研究に関する情報公開

＜人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針＞に基づき、研究の実施について情報を公開します。

★本研究に関するご質問等がありましたら下記の＜お問い合わせ窓口＞までご連絡ください。

★ご希望があれば、他の研究対象者[※]の方の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧いただくことができます。

★試料・情報が当該研究に用いられることについて、研究対象者若しくは研究対象者の代理人の方にご了承いただけない場合には試料・情報を使用いたしませんので、その際は下記の＜お問い合わせ窓口＞までご連絡ください。その場合でも、研究対象者の方に不利益が生じることはありません。

＜研究課題名＞

急性白血病に対する化学療法の臨床的効果と合併症の発症に関するアウトカム研究

＜研究機関・研究責任者名＞

日本大学医学部附属板橋病院 血液・腫瘍内科（研究責任者） 高橋宏通

＜研究期間＞

承認日 ～ 西暦 2027年 3月 31日

＜対象となる方＞

本研究の対象患者の期間:西暦 2001年 4月 1日 ～ 西暦 2024年 3月 31日に当院で急性骨髄性白血病または急性リンパ性白血病と診断を受けられた方。

＜研究の目的＞

急性白血病は白血病細胞が骨髄を占拠し、正常造血機能を抑えるために、正常の血液細胞、すなわち、赤血球、白血球、血小板が減少し、さらに急性に経過し、未治療なら、患者さんは数ヵ月内になくなってしまう恐ろしい病気です。急性白血病には原因となる細胞種により、急性骨髄性白血病と急性リンパ性白血病に分類されます。治療のベースとなるものは強力な多剤併用化学療法および同種造血幹細胞移植ですが、成人例においては、それらに耐性を持つものもあり、治療戦略についてはさらなる進歩が必要となっています。

急性白血病において、たくさんの治療法が開発され、さまざまな薬剤による治療法を受けることができます。しかし、それらは海外からのデータであり、日本においてどのような治療戦略が良いかというのは詳しくわかってはおりません。そのため、当院での治療成績を把握することが、これからの治療法を決定する意味でも検討すべき重要事項となっています。

これらの研究において我々は、新しい治療を行った急性白血病患者さんのデータを用い、過去の症例を再検討することで当院での急性白血病患者さんにおける治りやすさ、治りにくさの要因を明らかにし、今後のより良い治療戦略へと応用することが目的です。

＜研究の方法＞

該当する症例の診療録において、急性白血病の疾患特性（血液・尿検査結果、画像検査、診療録および病理保存検体の形態学的・細胞遺伝学的・免疫学的プロファイル）と臨床像の関連性、および予後との相関関係を調査します。個人情報は厳密に管理され、個人が同定され得るデータは施設から出ることはありません。

＜研究に用いる試料・情報の項目＞

本研究は日本大学医学部附属板橋病院血液・腫瘍内科において診療を受けた急性白血病患者さんの臨床データ（検査データ，診療記録，保存病理検体）を用いて行う研究です。

検査データ，診療記録をまとめ、データベース化いたします。

＜お問い合わせ窓口＞

日本大学医学部附属板橋病院（東京都板橋区大谷口上町 30-1）

血液・腫瘍内科 氏名：高橋 宏通

電話：03-3972-8111 内線：（医局）2403 （PHS）8033

※研究対象者とは、以下に該当する方（死者を含む。）を指します。

①研究を実施される方

②研究に用いられることとなる既存試料・情報を取得された方